

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」

<第13回> シンポジウム

「コロナ禍における“たすけあい”と、つながりの再構築をめざして」

山田 喜弘／生活協同組合コープみえ 組織活動推進部

森谷 秀香／みえ医療福祉生活協同組合 組合員活動部

石橋 のり子／三重県農業協同組合中央会 企画総務部次長

第13回（1月17日）：受講71名（対面13名、リモート58名）

- ・コープみえを利用する組合員が、班購入から個人宅配に移行しており組合員どうしのコミュニティが大幅に減少している。コープくらしの相談窓口には、毎年200件前後の相談がある。相談内容は、医療や介護の相談が大半を占めるが、金銭や近隣とのトラブル、ハラスメントなどの相談も寄せられる。コロナ禍に関連する相談では、保健所に関する問い合わせや、会社に不当解雇されたなどがあつた。身近に相談できる人が少なくなっている現状がある。若年、高齢にかかわらず単身世帯の増加。SNSなどネットの普及により一人でも不自由なく生活ができる世の中になっている。利便性が向上することで、地域の中で協同を必要とする作業や場面がなくなってきており、そのあつたコミュニティも減少してきている。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大は多くの学生にも影響を与えた。みえ医療福祉生協は、学生の学びと暮らしをフードパントリーで応援している。フードパントリーへの協力者は増えている。ボランティアの中には社会活動に参加したいという方や、そこが居場所になっている方もみえる。コロナ禍で生活が困難になり、学業を続けられなくなる学生がいる現代社会は平和と言えるのだろうか。生協で働いていると「戦争をしていない＝平和」ではないと実感し、現代社会の課題がたくさん見えてくる。平和な街づくりのために取り組んでいきたい。
- ・JAの女性組織は、県内に7組織あり7,801名が参加している。「たのしむ、まなぶ、つながる、つなげる」をスローガンに、生き生きと楽しく活動する組織であるが、活動の自粛から仲間と会えない不安やモヤモヤ感が膨らみ「できることからはじめよう」を合言葉に動き出した。JAいがふるさと女性組織連絡協議会はマスクを配って地域に貢献したいと手作りマスクに手紙を添えてJA直売所で配布した。その頃、他の女性組織では、SDGsへの取組の一環で不用品バザーを実施し、地域貢献活動に取り組んでいた。JAいがふるさとでもバザーを実施することになり、その収益金を寄付とキャンディにして地元の病院と医療従事者に届けた。コロナ禍は、多くの人々にコミュニティのあり方や、人と人とのつながりの意味を考えさせるきっかけになった。Webでの会議も開催したが心と心がつながらない。女性組織にとって、仲間と会ってつながることがどれほど大切か、助け合う協同の心の重要性を再認識させてくれた。仲間がいたから続けてこれたし続けていける。一人ひとりが地域に貢献しつつ地域で輝ける活動を次代へとつないでいきたい。



第13回講義／受講生のレポート（抜粋）

- 昔から高齢者の一人暮らしで孤独や孤立が問題となっていたことは知っていましたが、自分の身の回りに高齢者の方がおらず他人事だと思っていた。しかしコロナ禍になり、外出自粛を求められていた時、大学にも行くことができず、まるで人とのつながりがなくなってしまったように感じ、とても寂しくなったことを思い出した。高齢者の孤独も似たようなのだと実感し、加えて高齢者の場合友人たちが他界している可能性も高く、より話し相手を見つけるのが困難だろうと感じた。世代を超えたつながりを持てる場として、協同組合が場を提供することはインターネットが発展し、現実世界のつながりが薄くなっている若者にとっても心地よい場になるのではないかと思った。
- コロナでさらに浮き彫りになった地域や人との関わりの薄さ、つながりの脆弱さの協同組合という組織がどのように立ちまわっているのかを少しでも知ることができて良かったと思いました。協同組合の情報発信が弱いという現状が課題だと先生が仰っていたように、情報の受け手側である私たちの方からの積極的に情報を求めなくてはならないと感じました。この講義は法律経済学科の特殊講義として開講されていますが、私自身は文化学科に在籍しています。講義の出席者を見ると他学科の生徒がやはり少ないので、他の学部・学科に興味関心を寄せる・寄せないというのも、今回の先生が仰っていた受けて側の消極的な姿勢なのかとも感じました。一番身近なつながりの家族を大切に、というお話に、コロナ禍で確かに家族との関わりが増えて、以前より家族といる時間を楽しめるようになったと改めて感じました。家族という単位の大切さを感じると同時に、これからの時代は家族にとらわれない新しいつながりのあり方が増えていくだろうから、そこに差を出さずに支援と理解を広げていく必要があるとも感じました。
- コロナ禍で活動が難しくなっている状況の中でも、それぞれの協同組合が人々との繋がりや相互扶助を大切にすることによって地域に貢献し、地域をつくってきたということへの理解が深まった。また質問に答える部分で、3名とも共通して情報の発信力や訴求力の弱さに触れており、そこはやはり課題として見つめ直す必要があるのだなと感じた。ただ、それに対し先生が仰っていた情報が私たちに届いていないことの原因として、私たちが世の中と広く繋がれているようで、狭いものしか見ることができていないのでは、という問題提起にはっとさせられた。自分の欲しい情報だけでなく、それ以外の情報も広く取り入れようとする姿勢も非常に重要になってくるだろうと考えた。日頃コミュニティや繋がりに助けられているということを感じる機会というのは、まだあまり多くない身ではあるが、このように様々な経験をした方のお話をいろいろな方向から聞く機会を通して、改めてその重要性や価値を理解することが出来た。
- 活動の内容を知ることによって活動に参加しやすいのではないかと感じていましたが、自分自身が関心を持って自主的に活動することが大切であると考えが変わりました。SNSを通じて活動内容について知ることや、関心を持って自分から行動することが大切であると感じました。コロナ禍で人とのつながりが希薄になりつつある現状で、マスクやバザーを通じて地域貢献を行うという姿勢は素晴らしいと感じました。
- オンラインではなく、直接会って仲間と繋がる大切さを感じたというのが印象的でした。便利さを求めていったがために、直接のつながりが減ってしまっているという新しい視点からの意見を聴き、自分では気づくことができなかった視点だったので、とても興味深かったです。オンラインであることに慣れてしまい、次第に人との関係も薄くなり、直接会う機会があっても、自分から避けていつているので、今後はもっと人との関わりを大切にしていかなければならないなと改めて感じました。この講義で、今まで忘れていた大事なことを思い出させてくれて、とても貴重な時間となりました。

- ・コロナ禍において人と人とのつながりが分断され、本当に大切なことは何かを考える必要がある現在において、JAの女性組織は実際に何かできることはないかを考え、「できることからはじめよう」を合言葉に再び動き始め、また、特にマスクづくり等に取り組み始めた話は印象深かった。マスクづくりの取り組みの話は、コロナ当初のマスク不足の状況においては本当にありがたいものであっただろうことは明らかで、地域のために貢献しており素晴らしいと思った。最後の組合員さんから、組合員の方々が勉強の環境づくりをするから学生は学業に集中してほしいというメッセージを聞いて、学生のうちは学業を頑張ろうと思ったとともに、今後大人になったときにこの取り組みや支援のつながりを思い出し、自分もまた地域とつながり、貢献していけたらいいなと思った。
- ・コロナ禍で活動自粛が叫ばれる中で私は学校に行けなくて悲しいなと思っているだけでしたが、そう思っている間にJAの女性組織のように何かできることはないかと模索していた人たちもいたと思うと、自分の置かれている環境に適応していき、今できることをやることはとても大切で今後を変えていくんだなと考えさせられました。
- ・今回の講義より地域のつながりを作るために多くの人々が動いていることを知ることができた。今までの講義を他人事のように思えていたが、三重大学の周りでも活動が行われていることから自分もそこに参加できることに気付かされた。
- ・コロナ禍においてつながりが希薄化しているが、協同組合をはじめとする諸団体がつながり構築の場を提供してくれているから、あとはつながりを求める私たち個々人が主体的に行動するだけであると感じた。
- ・SNSが発達することで繋がりができると思っていたが、反対にSNSの普及によって孤独・孤立問題が生じていることがわかった。今回の講義では様々な協同組合の活動を同時に学習することができ、人と人との繋がりを考え直す良い機会になった。この講義を受けるまでは協同組合の活動を何も知らない状態であったがいかに繋がりが大切であるかを理解することができた。
- ・自分自身が知らないだけで身近な所でも私達が参加できる様々な活動が行われているため、受け身ではなく自分から情報を受け取ろうとする姿勢がとても大切だと感じた。また、自分が勇気を出して活動に参加していけば新たな居場所、交流を生むことができるということを学んだため、最初は友達を誘ってでも参加していくことが必要だと感じた。
- ・生協が関わる活動はたくさんあり、生協の職員でなくともボランティアとして参加することができると知ったので、この講義で話を聞くだけでなく実際に体験してみることでより大きな学びになると思った。積極的に活動することは億劫になりがちではあるが、一歩踏み出すことが大切だと思った。
- ・今回の講義内容をお聞きして感じたのは、様々なことを知ることの大切さでした。コロナ禍において誰かとつながることをすぐに諦めていたり、行動を起こすのが面倒だという人は今年の私を含めて多く存在していると思っています。そのような人たちに今回の講義内容のような、様々な組織の多くの実際の活動を知らせることで、誰かとつながる勇気を与えられるのではないのかなと感じました。ただ、講義の中でのお話にもあったように、誰かとつながれていない人達自身が積極的につなごうとしないこと、情報を知ろうとしないことが今の現状を作っている原因として挙げられます。そのため、平日頃からニュースや地域の情報に触れることで自分の興味関心のある分野を増やし、協同組合の活動の参加などに結び付けられたら良いなと感じました。
- ・最後のメッセージにもあった通り人と人が助け合って生きていく社会ほど大事なものは無いなと思った。

以上